

大木よねの心は、私ら全員の心……



機動隊は大盾でなぐりつけ、大木よねさんをひきずり出した。(七・九・一〇)

〓三里塚闘争の原点をたずねて〓
東峰部落・島村さんにインタビュー

本紙二四四号(十月十日付)より続く

(三) 降ってわいた「飛行場」の話

(1) これが農地略奪でなくて何だ！
入植してから二十年、飛行場の話がいきなり出てきた。(一九六六年七月閣議決定―註)

私はネ、私なりに、なんで飛行場がここにやってきたのかと考えた。政府はネ、隣の富里でこの計画をひっこめたばかりの所へ、そこそいきなりだ。これは何だ、というんですヨ！

それはネ、たしかに富里は先祖伝来の農地でネ、三町歩、五町歩って大きくやっている。三里塚はたかが開拓地だ。こういう判断があるんですヨ。気象状況もネ、地層も、それに航空路の問題など条件はどつちも同じなんだから。……やはり、われわれは零細農家だーこんな農民はつぶせるんだ、つぶしていいんだとーこういう考え、これがネ、私は、農地略奪だというんです。

許せネエですよ！小さいは小さいなりに、苦しんで作ってきた土地なんだ。

(2) 居留守・門前払い・機動隊
だから私らはね、そういう気持で運輸省や県に出かけていって、どういいういきさつになっているのか、なんで飛行場がここに来たんだかわけを聞かせてくれって、何度も出かけていったですよ。

その時彼等は何をやったか！居留守をつかたり、門前払いですヨ。じゃあ五時まで待てば帰ってくるだろうと座って待っていたら、本人は来ねエで機動隊がきて問答無用でひきずり倒された。

自由も平等も民主主義国家も口先だけでネ、やっぱり弱いもんから順々に首を切られていく、殺されていく、倒されていくーこんな事があつてなるもんか、口惜しい！ーこれが私の反対の出発点でしたね。今も全く同じですよ。こんなことをや

っておいてネ、何が今さら「話し合い」だ！というんですよ。

(四) 公団は何をやってきたんだ！
「大木よね」に対するしうちを見たとき絶対にもう奴らの姿勢は許せねエということですよ！あの日はずっと皆で集会を開いて待機していた。その日の夜8時頃になつても「代執行はやらない」と言っていて、皆が引き上げた直後にやった訳で

しょう。一人で脱穀やっている大木よねをひきずり出して、ブルで家をおしつぶしてバラした。あんなやり方でネ、たった一人の人間でも露天にさらした、それが私は許せねえんですヨ！とんでもないことですよ！あれは、あそこに五十年、三十年の生活があるんだ。それをヨ勝手に飛行場にす

(五) 労働者としての基本を闘いとる動労千葉に心から期待する。
正直いつて今の総評は何をやっているんだ、労働者の基本をつらぬいてやっているのか、という気がするネ。

こんな情勢の中でヨ、今の千葉動労(反対同盟)の表現(註)はヨ、労働者の基本にむかつて苦勞しながらも闘っている。国鉄でも革マルの「本部」でもこれをどうしようもない。本当の労働者の気持をつかんでいるからなんですヨ。

この組織をどうのばしていくか、この基本をヨ労働者の真の姿だという事で育てていかなければならぬ。三里塚、三里塚といわれるけれども三里塚以上にヨ、私は労働者としての闘いのすばらしさをこれが持っていると思うんですヨ。だから

こういう労働者とわれわれは一体となつて闘うところこそが今の体制を変えていくことだ、と、こういう風に私は考えているんですヨ。私らにしてみればネ、千葉動労の苦勞や闘いをヨ、逆に私らの手本にしていかなければならないと思つていますヨ。本当に皆さんガンバッテ下さい。

話し終つて島村さんは、ニコリ笑つた。このインタビューを通じて、私は、三里塚・芝山農民の闘いの原点、そして勝利の確信にいくらかでも触れることができたように感じた。同時に動労千葉一四〇〇名の闘いの歴史的正義性をあらためて確認できたように思つた。

時計も夜九時近くなつていた。10・21への健闘を誓いあつておわかれした。(終)